

第3回 中標津町都市計画マスタープラン 策定委員会 議事録

◇開催日時：令和元年5月27日（月）14時00分～16時00分

◇開催場所：中標津町役場 3階301号会議室

◇参集者：委員23名中 18名出席

1. 開会 中標津町建設水道部都市住宅課長 天野英典

ただいまより第3回中標津町都市計画マスタープラン策定委員会を開催いたします。

本日はお忙しい中、策定委員会にご出席いただきまして大変ありがとうございます。

まず初めに、事務局と委員の方に異動がありましたので、ご紹介させていただきます。

（事務局、委員の紹介）

それでは会議の開催前に資料の確認をさせていただきますと思います。



2. 資料の確認

配布資料の確認

3. 挨拶 小林委員長

（委員長）

この暑い中集まっていただきすみません。

前回は話したところですが、今年、都市計画法という法律ができて100年目を迎えます。日本をヨーロッパやアメリカのように先進国・都市にしなければということで、道路を作ったり公園を作ったり、色々やってきたわけです。

人口が減っていく社会になるのですが、東京駅のそばに丸ノ内という地区があります。三菱地所という大きなディベロッパーが土地や建物を持っているんですが、自分たちの力で界限をマネジメントしてきたんです。日本の中でも先導的なエリアで、国の都市計画を所掌するトップの局長というのが来て、これからは地域のマネジメントを推進しなければならない、という話をした後、最近のキーワードはパブリックスペースのマネジメントと公民連携だと言うんです。

もう少しわかりやすく言うと、100年前に法律ができたときには都市計画マスタープランはなかったんです。もうちょっときめ細かく都市計画の方向性を考えなくてはいけないという時期が30年前にあったんですが、その時に、こういう話があったんです。一番最後の資料に、都市計画区域の整備開発保全の方針というのがあるんですが、中標津町というのが、ここからここは市街地で、ここから先は住宅を作ってはいけませんという制度は適用されていないんです。大きな都市では、ここからここまでは市街地、ここから先は5年経ったら市街



地になるかもしれませんが、それまでは開発を許可しませんという法律制度で工夫してきたんです。それで法律をより人間的な空間を総合的に考えましょうというので、線引き都市以外も含めて、将来のビジョンを作っていこうと、地域住民も参加してビジョンを作ろうという切り替わりがあったんです。

その時に、中標津のように市街化区域を持たない地域はどうするかという話になったんです。国としては整開保だけでいいじゃんといったんです。でもこれは、一般の人から見たら、一体何のことか分からないんです。役人が読めばわかるんです。でも、公民連携で住民参加でまちをつくっていこうとするときに、図面に書いたよくわからないものと整開保だけでは、住民の人たちが、自分たちの町がどうなっていくのかわからないんですね。それで都市計画マスタープランを作ろう、という流れになったんです。

ですから、行政が街をコントロールしていくときには、整備開発保全の方針というのと、土地利用計画というのがあればいいんです。ところがそれを見ても住民の人はわからないので、公と民が連携して街を作っていくためのビジョンを都市計画マスタープランにしようということになったんです。これが今皆さんに議論していただいている都市計画マスタープランなんです。

さっきの都市局長の話もありましたが、道路は車が走るためのもの、公園は子どもたちが遊ぶためのもの、そこでお金を稼いではいけません、というのが昔の考えだったんですけれども、そういうパブリックスペースをマネジメントしていかななくてはならない、金を稼いでもかまわない、という意味合いも含めたマネジメントというのを言い始めたんです。ここ10、7、8年くらい。国も道も頑張られて、基盤って言うのは中標津はしっかりしています。これをどういう風にしながら、使いやすく心地よい場所にするかを考えていくのも含めながら考えるのが都市マスなんです。ですから、一言で言うと、町民の方と行政の方と、企業の方が、自分たちのまちをお互いに連携しあいながら、マネジメントしていこうという指針なんです。

皆さんそれぞれのお立場で将来を思いながら、アイデアや考え方をご提言していただくことになると思います。事務局が考えたことをこれでいいです、というのではなく、ぜひ皆さんが地域をこうしたいという気持ちを込めながら、話をしてもらえたらありがたいと思います。

4. 出欠の確認

(都市住宅課長)

本日の策定委員会の開催につきましては、委員の半数以上の出席がございますので、会議の開催ができることをご報告させていただきます。

5. 議事

(都市住宅課長)

小林委員長、ありがとうございました。

それでは議事の進行につきましては小林委員長に進めていただきますので、よろしくお願いいたします。



(委員長)

資料について分けて話していきたいと思います。

これからの検討のスケジュールと、今までのマスタープランを拝見しながら、今後どういったことが考えられるかについて説明をお願いします。

<株ドーコンより資料に基づいて説明>

検討の進め方について（資料1）

検討を深めていく論点・ポイント（当日資料）

現行計画の検証と今後の方向性について（資料2）

(委員長)

グルーピングしてあるのには意味があるの？これをテーマにして考えましょうということですね。

(ドーコン)

はい、皆様のご意見から、このあたりが強く出ていたところになります。

(委員長)

前回、この話をするとき、変則的でしたが、図面を前に話したので、場所の話がリアルになるんだけど、この図面を見ながらやればいいのか。

前回、皆さんが車座になりながら話したものを整理しながらグルーピングしたのが、こちらです。それで、その中でこの二重丸は何ですか？

(ドーコン)

◎がついているのは検証シートの中で、地域の交流の場づくりについて意見が強く出ていたところになっています。

(委員長)

前回、皆さんが大きな図面を見ながら、こういうことを課題解決しながら、次の世代につなげていきませんかとお話しされたことが、このようにグルーピングされています。

これを見ていただいて、こんな程度か、自分はこんなことも気にしているのだがというのがあればお話を伺いましょう。非常に形式的で申し訳ないのですが、この図面を左目で見ながら、二重丸のついているところ、中心部、地域の交流の場・拠点について聞きましょう。

このことについて、もっとこうしたらいいんじゃないか、行政と活動している皆さん、住んでいる皆さんがタッグを組んで解決できることがあれば伺いたい。

それと、中心市街地で言うと、魅力や価値を高めていくにはどうしたらいいかについてもお考えがあれば、加えていただきたい。地域の交流を深めていくためにはどうしたらいいか、子どもたちが地元に戻ってくるにはどうしたらいいか、それで、こんなことを地域で考えたり行動しているということがあれば加えていただきたい。そこからスタートしましょう。

上原さん初めてですが、いかがでしょうか。

(委員)

私は、地域の交流の場というか、中心市街地に住んでいるので、昨日も親水広場のなかまっぷで子供たちと水鉄砲とかで遊んだりしていたんですが、もう少し広がりを持った空間にできればいいなと思うんです。例えば、中標津にはなくて、帯広とかにある夜でも楽しめる屋台村とか、まちの子どもが集まるところに親も集まって、フリーなお店を出店できるような、そういう人が集うような街になっていけば更にいいなと考えています。

(委員長)

やれるようなきっかけとか場所があれば。

(委員)

例えば、バスターミナルは昔は使われていたと思うが、今はあまり人は並んでませんし、本当にあそこにあるのが適切なのかと思ひまして。せっかく人の集まる場所で、夏祭りとかをやっている公園も横にある中で、遊び場とか交流のできる場として使えないかと思う。

(委員長)

あそこは旧駅でもあるんですからね。

栗崎さん、伝成館は大変だという話は僕なりに理解しているつもりなんですけど、あそこは白樺並木があって、向こうに行けば高校があるでしょ。そういうところを活用しながら、伝成館だけでなく、あの周辺も含めて、中標津町の交流の拠点になるのではと地図でも示されているんですが、もっと高校や企業と連携したりして、中標津のへそにして行くと言うことは考えられないでしょうか。伝成館の維持管理も大変だと思いますが。

(委員)

現状ではなかなかあれなんだけれども。あそこはやっぱり、やりようによっては本当のど真ん中なので、人の集まる場になると思う。今のところは伝成館があっても、本当の意味で町民が理解していないから、行政がちょっとしたことを見せると、これが中標津の中心なんだ、という意識はできると思うんですね。

バスターミナルの付近というよりも、伝成館のように歴史を持った、白樺並木のあるエリアは非常にいい空間だと思うんです。何かを新しくセットするにしてもいい。どうもまちなかはなかなかセットしづらいんです。

(委員長)

北海道ばかりでなくて、日本の地方都市で、大陸から電化製品を買いに来る人ではなくて、きちんとその地域の歴史や文化を知りたいと言う人が増えている。それに対してどうしなければいけないかと言うと、日本の観光行政の遅れだからそれやりましょうと言ってチャレンジしているところはたくさんあるんです。

飯島さんが昔の資料や写真を持っているので、あれが日本中でやろうとしている街の歴史だとか文化の材料の一つになると思うんですね。新しい領域にチャレンジすることだけでなく、これまでの歴史を町内あるいは訪れる人に伝える場所が中標津に本当にあるのかと。

(委員)

そういう意味で、この根室原野の何も無いところに農業試験場ができたのが中標津町の始まりだとすれば、あそこにまちの中心がセットされると、別な意味で今漫然と過ごしているのが、歴史的なものも含めて中心になれると思う。今の現状の伝成館を生かして、町民が集う場所にすると、中心になれると思う。農業試験場がドーンとできたのと同じようなパワーを持って何かできると思うんです。

(委員長)

青年会議所が日本人学校をやろうとしているじゃないですか。1年とか2年研修に来た時に、そういう時に中標津ってこんな風にできて、プライドを持ってやってきたということについて彼らに伝えるとかは考えている？

(委員)

正直そこまで考えていないし、学びの研修は日本語であるので、そういうのは面白いとは思いますが、祭りとかには参加したいとお話しているので、そういうのを通してお伝えしていければと思いました。

(委員長)

今、アジアの若い人というのは、日本がいいことしたとか悪いことしたとかいろいろな言い方はあるが、自分たちの先祖が日本とかかわっていて、そのことを背景として日本を信頼してくれる割合が高いんですよ。

中標津もこれだけ何も無いところからチャレンジしてきたというマインドを合わせて伝えと、ほかのところの農業研修と違うことができるのではと思ったんですが。

(委員)

分かりました。そっちの方向にも振ってみます。

(委員)

今先生から指摘のあったことは、何らかのきっかけになると思う、伝成館にも。今のとこ

ろは何もわからないけれども、あくまでも今回来る留学生はその時点だけでなく、これに付随してどんどん広がる可能性があって、伝成館の役割も出てくるのではないかと思います。いききっかけになると思うんですね。

(委員長)

最近日本遺産というのを全国の複数の都市で文化庁の政策でやっている動きがあるんですね。それは、歴史文化だけでなく、明治の頭のころや江戸の末期くらいに全国 300 藩あったわけですが、地域にいろいろな人材だとか文化があったんですね。日本は各地にシビックプライドがあったのが、西洋と日本という物差しだけで測ってしまったことでいつの間にか失われてしまったので、そういうのをもう一度考える必要があるよね、というのが大雑把に言う施策の背景の一つなんですよ。

中標津町も入植してきた方のプライドを持ってらっしゃるんです。他のまちとは違うプライドを持ってやってきたんだと、それをきちんと伝えるのは今の時代の大切な役割ではないかと思うんです。期待しているんです。

(委員)

委員長、僕もシビックプライドについて考えていたんですが、実際に僕らも中標津に生まれて育っても、一体誰に歴史や文化を教えてもらうのかというと、古い人から教えてもらうのがいいんだと思うんですが、全くないんです。今の人はもっとないわけで、それがどこで勉強できるかは、今いる大人たちが、色々調べたものに対して、子どもたちに伝えることができる絵本だったりとか、各家庭で読めるような中標津のルーツ・歴史というものをつくることができれば、例えば伝成館とかでそういうのをみんなで作る作業をするだとか、そういうのをできれば、子どもたちが中標津を 100 年後も愛することのできるきっかけになるのではないかと思います。

(委員長)

それはここでいう、地域の交流の場につながっていくということですね。
松田さんはそういうのやってるんですね。

(委員)

私は、伝統とか、そういうことはやってないです。

今話を聞いていて思ったのは、うちの息子が 3 人いて真ん中が今年 5 年生なんですけど、4 年生の時に総合的な学習の時間に伝成館でお話を聞いたり、調べ学習で中標津がどうやってできたのかを調べてきた話を聞いて、私も初めて知りました。地主の乾さんの話などを勉強してきて。私はもともと中標津ではなく標津町なんですけど、そういったことについても学習する機会はなかったんですが、今は地域学習というのがあって、学校によるので、町としてどうなのかはわからないんですけども。

(委員長)

小学校のうちに必ず1回は伝成館に行くんですか？

(委員)

東小学校の場合は去年行っていました。

(委員)

小学生はたくさん来てくれているのと、私たち側から景観学習の中で、中標津全体の景観と、成り立ちなども、小学校4年生全員に今年度はやることができるようになっていきます。

(委員長)

もっと受け身でなくいろんな人を巻き込みながら新しい意味のある拠点にしていくという点についてはどう思いますか？

(委員)

今「みんなか」という任意団体を作っている段階で、その中で部会を作っていて、中標津の色を考える会、計根別を中心にかぼちゃのランタンでまちづくりをしていこうという部会、伝成館とその周りの歴史的な空間を活用する部会、景観調査の部会があって、歴史のある空間を生かしていこうという部会の部会長が私になりましたので、「みんなか」がちゃんと設立できて、活動はこの夏以降、伝成館とみんなかで連携してやっていきたいと思っています。活動拠点は伝成館の中に置きます。

(委員長)

日常的にきちっとした組織として関わるのはちょっと難しいかもしれないけれども、時々そこに行ってお茶を飲みながら話を聞いたりしたいなと思う町民は、伝成館に行けば、そういうところと触れ合ったり参加することができる。

(委員)

今は郷土館友の会の皆さんが頑張ってくださっていて、後ろの農具庫と種苗庫の見学も学芸員さんと動き始めたので、お互いに力になっていけると思います。

(委員長)

菅野さん、そういう動きが町民の中にはあるんですが、行政としてはどんな後方支援を？

(委員)

先ほどから出ている日本語学校のこともありますし、今後は普通に外国人が街なかにいるようになると思います。地元の人と外国人、中標津は特に空港もあるので、よそから来る観光客も増えていることから、地元の市民の方、近隣のよそ者として遠い外国人が混在する街だと思うので、それを強く意識しなければと感じています。

観光面では、観光ガイドをやっている、歴史のことを案内できないとガイドは務まらないので、街を紹介するときには歴史文化があって、将来どんな街になるかも観光客に対しても伝えなくてはならない時代になって来ています。

(委員長)

札幌のど真ん中にススキノがありますが、バスツアーの観光地にはなっていないんですが、あそこは北海道の開拓を進めていくために活躍した色々な人の裏を支えていた人たちがいるわけですね。そういう表の歴史と、隠された裏の歴史があるとしたら、隠された裏の歴史のガイドをきちんと作ろうというグループがあるんですよ。それで毎年研修をして、夏場、月に2回くらいガイド研修をした人が、10人ぐらいのグループにガイドをするんですよ。そうすると、北海道の開拓はこんな風なことも含めて、表に出てこない人がかなりの部分を支えたんだという労働哀愁みたいなものを感じることができるんですね。みんなが大事にしなければいけない、忘れてはいけないこともガイドをするということの大切さをその人たちから教えられたんです。

(委員)

村の歴史かどうかはわからないんですが、伝成館での語り部というのは、まさに表の歴史をガイドが伝えきれない部分を担っていると思うので、そこをきちっと伝える仕組みを作っていないかと思っているんですけども。

(委員)

伝成館は飯島さんが資料をお持ちで、なかなか若者にどう伝えていくか、その重要性がどういったところにあるのかを、地元の人に分からないところもあるので、そこを中標津以外の方がこんないいところや歴史があると言って、それをきっかけに、まず町内の方が理解できるような場づくりを教育委員会でもやろうとしています。地元の人たちが理解を示さないとやはり長く続けていけないものになるので、伝成館なり、郷土館友の会などの力も借りながら下地作りをしていかなければと。史跡登録という考え方も整理していきたいというところで今まさに動き始めているところです。今後、お力添えをいただきながら、まずは地元の方により多く理解してもらおう方向で、年内にはそういった集まりの場を設けて、集中してやっていきたいな考えている状況でございます。歴史的文化資産がポイントとなっていたが、まさに伝成館を中心に教育委員会も進めていきたいと思う。

冒頭にも、上原さんの方から、中心市街地の方についても、遺跡の方とはまた別の視点で考えていかななくてはならないのかなと感じています。

(委員長)

佐々木さん、今どんな風に考えておられますか？

(副委員長)

伝成館には私も少しは関係していましたが、これから先楽しみなんです、歴史と

いうのは昭和 50 年くらいまでになっているが、実はそれ以降も歴史というのは現在までも続いているんです。つい最近は、農業でもロボット化の牛舎も出来上がりました。そういう流れをあそこに行ったら中標津町の歴史が分かるよ、というような形ができると、一般町民も誰かと一緒に行ってくれるんじゃないかなと。拠点施設を作るのではなくて、そういったソフト面からやっていってはどうかと思います。特に郷土館では毎年 1 回か 2 回くらい写真展をやっているが、そういうのがまとまって見れるようなのがあったらいいんじゃないかと思っています。

(委員)

飯島さんは、他から来た人で中標津をものすごく研究した人です。つまり郷土史家なんです。中標津には何人かいたんだが、その跡を継ぐ人がいないわけです。そういう意味では飯島さんの存在は非常に大きいんだけど。

本当は、郷土館友の会というのができているが、そういうグループができないと、飯島さんの活動は生きてこない。支える町民が生まれてこないと、素晴らしい人でも今の段階では部分的にお話をしているだけで広がっていかない。できれば町民で同意する人が何人かいて、郷土の歴史を伝えていこう勉強しようというグループがあれば。本当の意味で郷土の歴史を調べましようというグループはないんです。そういう郷土史の勉強をしようというグループができると、伝成館の存在価値が出てくるんですね。

(委員長)

長渕さん、空港があって、商業的な力もあって、ちょっと足を延ばすと酪農村ですよ。日本でも珍しいまちだと思うんですよ。中標津や道東の魅力を感じたいという人がこれから増えてくると思うんです。

これから 7 月に千歳プラス 6 空港の民営化が決まります。そうした時に、千歳はたくさん人が来るんだけど、それ以外のところには人が来ない。それを黒字化するのが民営化の目的の一つなんです。

それに歩調を合わせるように、中標津にも魅力を求めてくる人たちは増えると思うんですよ。町場の人たちと、農村空間をうまく魅力として生かすことは農協としては何かお考えになっているんでしょうか。

(委員)

歴史という部分から、農協もちょうど 70 年ということで、70 年の記念誌を配っているところですが、そういった歴史認識と、先ほども佐々木さんからお話があったように、人がいないということで、クラスター事業で、年間 6~7 軒くらいはどんどんロボット化していて、一番進んでいるような農業になっている。

中標津に来た時に、空港の近さの立地条件と、一步外に出るとコントラといって牧草の収穫をしている機械は、今は 1 億円くらいの機械が動いて、ダンプが並走して、というあの景色を見たら、ここ日本なのかなと思ってもらえたり、開陽台の景色を見に連れて行ったり、すごく面白いところがあると思うんですね。機械を入れて搾乳したり、ちょっと足を延ばす

といい部分はたくさんあるんです。

一方、糞尿のにおいも問題になっていて去年の秋から取り組んでいるんですけども。ちょっとみなさんに聞いてみたかったのが、今年5-6月は空港周辺の臭いはどうでしたか？空港から降りたときにどうかというのを、街に近い農家さんとで資材を使って取り組みしていたんで、聞いてみたかったんですけど。観光については大事な部分で、農家に行ってもあの現場を見せたくないなというのはある。牛乳の白いイメージに、糞尿という悪いイメージがついてほしくないんですね。

今は大きな牛舎でロボットの的に飼っていて、24時間搾乳しているという近代的な農家から、夢を目指してきて、20~30頭で、NHKでやっているなつぞらみたいに牧歌的にやっている農家とどっちも面白いなと思っていて、それぞれに魅力があると思う。

昔、農産の担当をしていて、ずっと大根やブロッコリーを売っていたんですが、そのまちに行くと、観光地でないものを見たり聞いたりするのって面白いし、先ほど佐々木さんも伝成館のことでおっしゃっていたんですけども、この場所がこんなだよという写真を紹介するような場所があれば面白いのかなと思ったり。中標津で昔食べてた料理とかが出てくるとちょっと面白くなったりとか、何か中標津町らしいところが、やはり酪農中心なので、いろんな農家さんもいて然りだし、このまちの良さというのと、そういうところをうまく伝えられたらいいなと思っています。

(委員長)

町場と酪農地帯というか生産地帯とがお金も人も循環できるようなのが望ましいという風にお考えなんですよ。その拠点についてはどう考えますか？

(委員)

ララファームという研修施設があるのですが、そこが研修牧場となっていて実習もできて、人材を育てているのですが、まだ稼働して1年なので、まだまだ基本路線に乗せるという感じですが、もう少ししたらそこもアピールしながら、ちょうど空港と開陽台間なんで、近代酪農を見せるというか、乳しぼりして帰るというような、そこから始まる人の集客というのが、観光として労働に結び付けばいいと思います。

(委員長)

話を続けていくときりがないと思うが、これをネタにしながら、継続的にやっていきたいと思うんです。これにメモを書いていただいて、こんなことをこんな風に加えていったらいいんじゃないか、地図にここにこんなものがある、我々が活用したらこんな拠点ができるよ、こんな風に活用したらいいんじゃないかという意見があれば、地図にも加えていただいて、次回の委員会に持ってきていただいて、お話を加えていただければと思います。これが宿題です。

今の議論の中で付け加えていくべきだってことがあれば。

次に、議事の3番目と4番目について、これからヒアリングなどについて、皆さんの考えていることをベースにやっていきたいと思っています。その内容について、考えていることをご

披露していただきたいんですけども。アンケート案とインタビューについて。

<㈱ドーコンより資料に基づいて説明>

アンケート案について（資料4、資料5）

（委員長）

簡単な質問なんですけど、単身者のところに行くとは話は簡単なんですけど、世帯に行くとは戸惑う人って多いと思うんですよ。

（ドーコン）

世帯宛ではなくて、その人に宛てて配布します。

（委員長）

世帯主に来て、自分のことを考えるだけでなく、お母さんはどうやってるとか、併せて考える例がとても多いんです。それをどうやったら正しく伝えられるか。

（ドーコン）

その人の実感でお答えいただければと思っておりますけれども。

（委員長）

無作為抽出って住民票からやるんですか？何をベースにして無作為抽出何ですか？

（街づくり推進係長）

住民票ベースです。

（委員）

回収率は何%を目指しているんですか。

（ドーコン）

3割くらいです。

（委員）

役職柄、こういうのは書くようにはしているんですけど、興味がなければ本当に書かないですね。もっと簡潔にするか、町民の集まる場所をとるか、そうすれば回収率高まりますし、そこでもっとこういう質問あれば答えやすかったのにとかが分かれば、次につながる意見がもらえると思うので、今まで通りのやり方でないアンケートにしたほうがより面白いと思うんですけども。3割で満足するかどうかというところもあると思うんですけど。

(ドーコン)

一応統計上では3割で信頼性が確保できるということで設定になっているんです。

(委員)

アンケートに答えたら税金少し安くなるとかあればいいかもしれないけれど。本当にそれが必要であればやってもいいかもしれない。ゴミ袋とか。

(街づくり推進係長)

ご褒美があればと思うが。

(委員)

これからの根幹になって、集めれば集めるほどいい意見が出ると思うので。3割で満足するのか、というところだと思うんですよね。今後の子どもたちのことを思うのであれば、ここに税金を投入するのかというも面白いと思うんですけれどね。

(委員長)

素直にこれが届いたときに、どう反応するかということですよ。

(委員)

会社に統計調査のやつが来たんですけれど、見ないでそのまま捨てたんですが。そんなレベルですよ。

(委員)

一人の人にこれだけの分量を聞くということですよ。

(街づくり推進係長)

だいぶ簡略化したつもりなんです。

(委員)

この会議自体がとても幅広いことについてなので、分量は考えられたものだと思うんですけれども。

思いつきですが、例えば、インターネットでできるようなのを作ることはできないのか。町のフェイスブックとかで、アンケートをクリックでサクサクと、それを一週間おきに更新というか。その方が分かりやすいかなと思うんですが。世代に応じて、使う方はその方が答えやすいと思うんで。高校生は学校にお願いしてはと思うんですが。

(街づくり推進係長)

インターネットを使ったのはできるので、若い人の意見が主になると思うんですが、検討したい。紙でないといけないという人もいるので、期間もある程度まとめた中でその手法を

やりたいと思います。

あとは皆さんがどこかに集まった時にそのアンケートをやるのも一つかなと思うんですが、ただ色んな町外の方も来ると回答を集計するのが難しくなると思うんですが、その点も考えたいかなと。

大きく公開していないですけども、都市マス策定委員会のフェイスブックページも作ったのでそこからも広げていきたいと事務局の方では考えております。

(委員)

村元さんもおっしゃったように、アンケートで町民の意見を吸い上げるのは難しくなっているんですね。町民の関心のありなしの話でなくて、今消費者協会でもアンケートしようとしてるんですが、足で稼ぐしかないかという相談をしているところなんです。返信用の封筒を入れても3割しか返ってこない。こういう形でやるアンケートだけがすべてじゃなくて、いろんなところで、集会しているところでアンケート取るだとか、時間はかかるけれど長い時間をおいて町民の意見を聞くことができると思うんですけど。なかなか本音は出てこないですが。今の時代はこういう書式のアンケートだけでは本当の意味の意見は汲めないと思うんですよ。

(街づくり推進係長)

そういった工夫も必要ですし、企画課の方でやる総合発展計画の方でも、アンケートは毎年やっています。この倍くらいあるので、村元さんもおっしゃるように投げたくなるようなあれなんですけれどもそれらも活用しながら、同じような質問事項もあるので重複しないようにやっていきたいと思います。

(委員長)

なるべく多くの人のお考えや思いつきも含めて分かるように、工夫してください。
ゴミ袋はいくらですか？

(街づくり推進係長)

値上がりするので、古いやつをあげると怒られるかなと。一番需要がある燃えるゴミが効果的かなと。

(委員)

値上がりした時は古いやつは使えなくなるんですか？それともシール貼ったりしたら使えるようになるんですか？

(委員)

実施時期が10月ですからそれまでに古いものは使い切ってもらって。若干の猶予がないとは思っています。

(委員長)

いろいろ工夫しましょう。では、インタビューについて。

<㈱ドーコンより資料に基づいて説明>

インタビューについて（資料6）

(委員長)

高校生に聞くときに、ちょっと工夫してほしいんですが、去年ブラタモリのタモリとビールを何人かで飲んでいたんですが、博多の特性として、ずっと博多にいてくださいとは決して言わないと。必ず中学・高校が終わったらチャレンジして、大学なり企業なりに務めてこい、やって来いと。それで失敗しても構わない、って言って送り出す。そこでうまくいけば、博多っ子のシナリオとして、心として、稼いだ金とか人間関係とか、ノウハウを地元で落とす、持ってくるんですね。失敗したら、よくやったと言って温めて、それからもっとやれと言ってまた送り出すというのが、博多の元気さの根っこだって言うんですよ。

ところが関東以北ってそうじゃないじゃん。失敗したら故郷に戻れない、かといって街に魅力がないのでは、ずっと街にいたいとは思わない。だからどんどん疲弊していくんじゃないのと、500ccのビールを飲みながら1時間半くらい彼が言うわけですよ。だから、高校生にずっといてくれっていうのはかなり酷な話で、必ず出ていきたいんですよ。頑張ってきて。成功したらまた戻ってくる、失敗しても受け入れてやるという心をもって、高校生にいろんなことを聞いてほしいですよ。

(委員)

JCでは高校生に同じテーマで、SDGsも絡めて6月に授業をやるんですね。あなたはという街だと中標津町に帰ってきたいですかというのを、議会の人と、SDGsを絡めてやるんですけど。これをやってしまうとまたか、ということになってしまうので、その意見も聞いていただければ。

(ドーコン)

何月何日でしょうか？

(委員)

6月24日で、中標津高校で授業をやって、中標津農業高校の生徒も一緒に関わって、農業高校の生徒は、SDGsのテーマで海外研修に行くんで、その前に学んでから行きたいというので、そこにコミットしてやるんですけれども。アクティブラーニングは終わっていて政策もできて、あとはすり合わせていくという段階になっているんで。

(ドーコン)

ワークショップ形式とかで話し合いをするような形でしょうか？

(委員)

アクティブラーニングなんで、ワークショップでやって、自分たちでクラスに一つの政策を作るというものです。僕たちもまだ政策は見えていないんですけども、どんな楽しい政策が出てくるか。議会の議員さんはビビっていると思うんですが。

(委員長)

海外研修はどこに行くんですか？

(委員)

農業高校の生徒は、今回はオーストラリアではなくて、カナダって言ってましたね。

(委員長)

高校生というのはすごく大事だから、彼らに負担にならないように、かつよし俺らも思ってもらえるように、連携してやっていってもらいたいと思います。

(街づくり推進係長)

何回くらいやるんでしょうか。

(委員)

教頭先生に確認したら、アクティブラーニングはよくやっているんで、むしろ JC さん絡まなくてもやれますよと言われて、相当数やっているみたいなんで、何回やっているかは把握していないんですけども。

(街づくり推進係長)

学校の授業で進めてもらっているということですか。ちなみに 3 年生とかに限定してやっているんですか。

(委員)

3 年生です。

(委員)

6 月 24 日というのは何かあるんですか？

(委員)

僕たちの授業で高校生と中標津町議会の、中学生で中学生議会がありますが、その高校生バージョンで、まちをどうしたら中標津に帰ってきたくなるか、というのと SDG s を絡めてやっているんですけども。

(委員)

それは一般も見ていいのか。どこで？

(委員)

後でお話します。お願いします。

(委員長)

佐々木さん、協議会のところにヒアリングをするときに、注意したほうがいいとか、こういう風にやったほうがいいというのがあれば。

(副委員長)

協議会自体は町内会の集まりなので、会長さんが来るんですけれども。来る人もいるし来ない人もいますし。

西部では、7町内会あるうちの4町内会しかメンバーになっていなくて、3つの町内会の意見をどう吸い上げるのかも課題になっているんです。一か所で集まるのか、各单位町内会で集まるのか。まちづくり協議会がないところをどうやって行くかも、かなり慎重にやっていかないとならない。都市計画マスタープランがあるからと言って、新たに入れてもらえないかと3町内会に聞いたが賛同は得られなかったという状態です。前回集まったメンバーの想いをくみ取って、グループに分けてもいいからやってもらわないと、全町内会に聞きにいかないといけなくなってしまう。

(街づくり推進係長)

5年位前にアンケートを取ったらですね、やっぱり当時の策定した経緯というのは受け継がれていないというのがありました。町内会長さんも変わっていますし、町内会ごとにヒアリングするってことも必要ですし、基礎に戻って当時こんなことをやっていたということを振り返りながら、これからどうするかというのを聞き取っていければいいのかなと思いました。

(ドーコン)

インタビューするときに、可能であれば、委員の皆さんと一緒にヒアリングに行きたいと思っていますところでは。

(委員長)

カジュアルにインタビューしてくださいね。そのほか、インタビューについて気になる点はありませんか。

(委員)

コミュニティースクールということで、中標津町小学校ということでここに上がっているんですが、全部ですか？

(ドーコン)

まだ決まっています。

(委員)

町内の PTA 連合会が代表的な組織ですよね。やはりその辺で、各地域の情報を拾ってもらったうえでの方がいいかもしれません。

中学校区基本でコミュニティースクールがあるんですが、それぞれ考え方や進行具合も違うと思いますので。その辺のところをうまく抽出できるようにしていただいたほうがいいと思います。

(委員長)

飯野さんは、それぞれの特徴はお分かりですか？

(委員)

まだここ 2 年くらいで始まったばかりの話何で。

自分の計根別の学校の方は PTA の会長なんで、計根別のことはわかるんですが、他の地域だとちょっとわかりづらいところがありますね。

ただ、各学校で進み具合が違うと聞いているところもあるんで、考え方とかは違ってきていると思います。

(委員長)

松田さんは全部に行った方がいいということですか？

(委員)

私は、町内会との関わりよりも学校とのつながりの方が大きいので、私たちくらいの世代の人たちは、町内会の集まりよりも、学校からの連絡の方が気になっているのかなというか。

コミュニティースクールも動いているところと動いていないところと色々だと思うんですが、学校と地域とでどうやって子どもたちを育てていくかということに関わってくるところだと思うんで。

(街づくり推進係長)

ここに書いているのはあくまでも例なので、他にも聞きに行った方がいいところがあれば教えていただきたいと思います。先ほどの町 P 連もそうですし、ここにはいけれど聞きに行っているというのがあれば。

(委員)

まちづくり団体ではないんですが、中標津は空港が圧倒的に大きいので、空港関係者も重要だと思うのでぜひインタビューしてほしいなという願いがあります。空ビルだとか。

(委員長)

イメージとしてどんなことが出てきそうなんですか。

(委員)

最近の客のニーズというか、案内所が空港にあるんですが、中標津や東の北海道がどう見えているのかということは、聞いてみると毎年発する言葉や見方や視点が違ったりするので、よそから見た目という意見が聞けると思います。

(委員長)

他に何か対象にするべきところがありますか？

加藤さん、この間はごちそうさまでした。すごく気になっているのは、あそこで働いている方がいらっしゃいますよね、すごく色々な事を詳しく知っているんですよ、食べ物だとか、何故これが大事なのかとか。加藤さんのお店だけでなく、実際に働いていて、ここをもっと売りたいんだけど、こんな風にしたらいいんじゃないかと思っている若者とか飲食の関係で結構いらっしゃるんだと思うんですけども。

(委員)

さっきからお話を聞いていて、正直自分は出てきて20年経つけれども、伝成館には1回しか行ったことないし、普段生活していて、ふと思い出すかという思いださないし、正直言って興味もないし、何をもって拠点とするのかという意味もわからないし。今日始まってから、わからないことだらけで。

伝成館を中心と言うのであれば、お客さんに伝えるというのをすごく大切にされていて、連合会としても伝成館に勉強しに行かなきゃなと考えてたんで、本当に伝えるということは大事だと思っているし、お客さんの受けも変わってくるので、大事にしたいと思うんです。

子どもが地元に戻ってきたときに働き先があるか、ということしか考えていないので、まちのことについて考えたことがなかったので。そうやって商売をすることがまちのためになるということしか考えてないから、何も意見はないです。

(委員長)

先ほどの長瀬さんの話のように、外から来た人が中標津やその周辺のをマッチングさせて、ああいう仕事をしている人だからできるんじゃないかと思うんですけども。

(委員)

ただ、中標津の飲食は美味しくてレベルの高いところも多いんだけど、そこまでつけてやっているお店は少ないのが現実で。竹下牧場のチーズみたいなを提供しているお店も何軒か出てきていて、まさにそういうことだと思うんですけども、そういうことができればいいと思うんだけど、まだまだできていないのが現状です。ただいいお店はたくさんあるので可能性はあると思います。

(委員長)

伝成館がすべてではなくて、他にいろんな拠点があっていいと思うんです。

(委員)

そうですね、その方がいいと思います。

(委員長)

思いついたら、こういう若者にヒアリングしたらいいんじゃないかというのがあったら教えてください。

(委員)

はい。

(委員)

格子状防風林のことが、いくつか課題と方向性のマップにも出ているので、林業関係者とか管理運営されている方へはしばらくヒアリングしていなくて、格子状防風林や町有林の管理のことについては、町役場の方もわかると思うけれども、今書かされている内容以外にも必要ではないかと思います。

(委員長)

ありがとうございます。他はよろしいですか。

今いただいたことを大事にしながら、インタビュー、ヒアリングのことをもう一回精査させていただいてスタートさせてください。あとはまたフォローして、インタビューの対象を増やすのはありとして、今のインタビューの内容を前提として作業をさせてください。

では、最後の説明をお願いいたします。

<中標津町より資料に基づいて説明>

視察について（資料7）

パブリックコメント実施結果について（資料8）

都市計画区域の整備・開発及び保全の方針の見直しについて（資料9）

(街づくり推進係長)

資料9について、文言等足した方がいい点などあればお申し付けていただければ、我々の方で検討いたしまして、北海道の方に提出したいと思います。また報告する段階になりましたら、皆さんにお示ししたいと思っているので宜しくお願い致します。

(委員長)

他に何かこの場でというのがあれば、よろしいでしょうか。

次回、お願いした宿題について忘れないようによろしくお願いします。

6. 閉会

(都市住宅課長)

事務局から一点ご案内させていただきます。次回の策定員会は、10月頃か9月を予定していますが、その前に視察に行きますので、視察の報告会を実施したいと考えておりますので、進捗状況を見ながら、委員長と副委員長と相談させていただき、委員の皆さんに改めて開催案内をさせていただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは予定していた議事については無事に終了ということですので、小林委員長ありがとうございました。

最後に副委員長から挨拶をお願いいたします。

(副委員長)

本日はお疲れ様でした。3回目の会議で少しは内容が分かってきたような気がいたします。私は掛川に行くことになりました。おいしいお茶を飲んでくれるだけでなく、いい話を聞きたいと思います。本日はどうもお疲れ様でした。

(都市住宅課長)

長時間にわたって、貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

以上をもって第3回都市計画マスタープラン策定員会を終了したいと思う。